

石巻市の基本情報



人口	134,711人
65歳以上人口	46,868人
高齢化率	34.79%
面積	554.55km ²
日常生活圏域	5圏域
生活支援体制整備事業	16地区
地域包括支援センター	12か所(委託)
認定率	20.9%

R5.12.31時点

石巻市は、北上川の河口に位置し、宮城県の北東部にあるまちです。金華山沖漁場を背景に漁業のまちとして栄え、現在も、金華山沖は世界三大漁場の一つに数えられています。また、昭和39年に新産業都市の指定を受けてからは、石巻工業港が開港するなど、工業都市としても発展を遂げてきました。平成17年4月1日には石巻地域1市6町が合併し、海あり山あり、新・石巻市としての新たなスタートを切りました。『金華山』や『石ノ森萬画館』『慶長使節船ミュージアム』など見どころがいっぱいです。

生活支援体制整備事業の取組状況

第8期介護保険事業計画 基本理念

「共に支え合い、生きがいと役割を持って、
健やかに安心して暮らせるまち」

第7章 支え合いと連携の推進

第4節 生活支援サービスの体制整備

1 地域づくり支援事業

生活支援コーディネーターの配置や地域コミュニティ、地域包括支援センター、民生委員、保健師等が連携して、地域ごとに第2層協議体を設置することにより、多様な主体による生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築し、高齢者を支える地域の支え合い体制づくりを推進します。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
第2層生活支援コーディネーター配置数	13	13	13	13	13
第2層協議体設置数	0	3	11	14	16

対応する「石巻市の課題」（第8期介護保険事業計画 P47・48）

- ④日常生活の支援体制の整備
- ⑥地域活動への参加

生活支援体制整備事業の取組状況

生活支援コーディネーターの配置

◆第1層生活支援Co：1人（石巻市社会福祉協議会へ委託）

◆第2層生活支援Co：13人（石巻市社会福祉協議会へ委託）

※ 地域福祉コーディネーター（CSC）と兼務

協議体の設置

◆第1層協議体：市直営で運営（平成27年設置要綱の制定）
令和4年度にワーキンググループ
（以下、WG）を立ち上げる。

◆第2層協議体：平成30年度から段階的に立ち上げ
（令和4年度 全16地区で設置）

町内会や行政など

第2層：16地区 ……………

第1層：市全体



第2層協議体の立ち上げ・運営

平成28年4月

石巻市社会福祉協議会 事業受託
生活支援Co 14名配置

※第1層Co1名、第2層Co13名

平成30年9月

第2層協議体立ち上げスタート(段階的に)

年度ごとの立ち上げ開始時期			
H30	R1	R2	計
4地区	6地区	6地区	16地区

- ①石巻
②山の手
③釜・大街道
④牡鹿

- ⑤住吉
⑥山下
⑦荻浜
⑧稲井
⑨河北
⑩北上

- ⑪湊
⑫蛇田
⑬渡波
⑭雄勝
⑮河南
⑯桃生

令和4年6月

第2層協議体 全地区で設置

第2層協議体の立ち上げ・運営

●協議体の基盤(主なメンバー)

福祉活動実践者(団体)を基盤

町内会長連絡協議会や行政委員会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ、サロン団体等の団体や組織を中心にメンバー構成

福祉活動実践者(個人)を基盤

町内会長や民生委員、主任児童委員、福祉協力員、サロン活動実践者、商店の方など地域で活動する個人を中心にメンバー構成

ずっとすみたいまちづくり事業(旧地域自治システム)を基盤

旧地域自治システムの福祉部会等と連動する形でメンバー構成

各支所の地域福祉推進委員会を基盤

社協各支所で組織されている、地域福祉推進委員会(構成:自治会、民児協、老人クラブ、社会福祉法人、学校等)のメンバー中心に構成

石巻市第2層協議体イメージ図

生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築

家事援助

サロン活動

外出支援

見守り・安否確認

石巻市

第1層生活支援
Co

提案
協議

- ・ 提案は**問題解決手法**の1つ
- ・ 第1層、第2層間の**連携促進**
- ・ 現状、課題等の**抽出と共有方法**

第1層:市全域

ボランティア
組織

包括支援
センター

NPO法人

民生委員・
児童委員

社会福祉
法人

町内会
連合会

第1層
協議体

老人クラ
ブ連合会

提案・
共有

提案・
共有

第2層生活支援
Co

第2層:16地区

包括支援
センター

企業

包括支援
センター

老人クラブ

第2層
協議体

民生委員

第2層
協議体

民生委員

町内会

サロン
団体

商店の方

町内会

サロン
団体

福祉協力員

伴走型支援事業にエントリーした理由

理由

第7期介護保険事業計画に基づき、平成30年度から生活支援Coを配置し、第2層協議体の設置に取り組んできた。令和4年度には、全16地区で第2層協議体が設置され、今後は、高齢者を支える地域の支えあい体制づくりの推進が求められている。

石巻市の状況として、旧石巻市内と旧市外との地域特性が大きく異なっており、地域の関りや社会資源などにも差がある。第2層協議体についても、メンバー構成や、立ち上げの経緯、活動内容なども異なっている。さまざまな地域・協議体がある中で、どのような目標にし、どのように事業をすすめていけばよいか悩んでいた。

第1層協議体と第2層協議体の在り方や目指すべきところについて、ここが生活支援体制整備事業の転換期と捉え、ご助言をお願いしたい。

課題

- ①16地区の第2層協議体の進捗状況が、それぞれ大きく異なっており、今後の進め方や在り方について、市の方向性が定まっていない。
- ②第8期介護保険事業計画の目標が、第2層協議体設置数となっており、目標の16地区で設置され、達成されたことになる。今後の目標の設定について、どうしたらよいか。
- ③第1層協議体と第2層協議体の連携や今後のあり方と進め方が明確ではない。

わたしたちの思い 1

第1層協議体

- ◆第1層協議体も勉強会や視察等を実施し、自分たちも理解を深める必要がある。
- ◆第2層協議体が全地区で立ち上がったので、より連携を図るべきではないか。
- ◆第2層協議体との方向性合わせが必要ではないか。
- ◆第1層協議体が2層域の現状やニーズを把握することが不足している。
- ◆第2層協議体で話し合われていることが、意見としてあがってくる仕掛けが必要ではないか。情報の集約に加え、整理・分析が必要となる。
- ◆第2層協議体へ情報をきちんとフィードバックし地域で話し合う材料としても活かしてもらう必要がある。
- ◆地域課題解決に取り組むには優先順位も必要。モデル地区の考え方もある
- ◆第1層協議体の話しづらい雰囲気を変えたい。回数も少ないので、関係性ができずチームになる事が出来ない。



今後は、同じ方向性に向けて、第1層協議体と第2層協議体の連携を強化し、第2層協議体の状況把握や整理・分析を進め、仕組化が必要なものなど提言につなげたい。

わたしたちの思い 2

WGにて、第2層Coと協議体の進捗について意見交換を行いました。

第2層協議体

- ◆第2層協議体のやり方は、多種多様であって良いが、市の方向性の統一は必要ではないか。
- ◆それぞれの2層協議体が、現在どのような段階なのか把握が必要。
- ◆2層で話し合ったことを、どこへ向けるのか、という疑問の声も出始めている。
- ◆協議体を立ち上げることで、話し合う場を継続的に持つことがこれまでの目標であったが、地区によっては、次のステップへの働きかけが必要な協議体もある。
- ◆「テーマ」を設けることで、何を目的にどこを目指す事業なのか、を再度確認し合う時間になるのではないか。
- ◆立ち上げ期で止まっている地区もあり、テーマがあった方が進めやすいこともある。
- ◆他の第2層協議体がどのようなことをしているのか知りたいという声がある。
- ◆話し合いの中で、整理し分析し、協議体(地区)で取り組めることと、1層へ上げていくことの整理をしていけると良い。
- ◆年数が経過し、協議体も成熟した今だからこそ、メンバーが理解できることも増えた。次のステップへ向けて1層と協働できると良い。

第2層協議体をより良いものにしていくために、協議体同士の横のつながりを深めたい。また第1層協議体とも連携していきたい。

令和5年度取り組みたいこと

強化項目 第1層・第2層協議体の連携を強める

重点項目

①共通テーマの設定と地域ニーズ・実態把握

…第2層協議体と同じ方向性の中で事業を進めることができるよう、共通のテーマを設定し、テーマに沿って、各2層協議体の現状や今後に向けた提案などあげてもらう。

②学びの場の創出

…事業の理解促進、知識を深め活動のヒントを得る、協議体のスキルアップ、2層協議体メンバー同士の意見交換など、横の連携を強化する。

1回目支援内容(10月6日)

- ◆体制の確認
- ◆取組状況の共有
 - ・今までの積み重ね
 - ・協議体委員向け研修会
 - ・地域ニーズ・実態把握シート
- ◆今後の取組について意見交換



WGメンバー

【参加者】

- ・仙台白百合女子大学 准教授 志水 田鶴子 氏
- ・特定非営利活動法人ぱんぷきんふれあい会
- ・石巻市河北地域包括支援センター
- ・石巻市保健福祉部介護福祉課
- ・宮城県東部保健福祉事務所
- ・宮城県社会福祉協議会 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局
- ・社会福祉法人 旭壽会高齢者複合施設
- ・石巻市社会福祉協議会
- ・宮城県保健福祉部長寿社会政策課

1回目支援をとおして

参加者の気付き

- ◆着目する視点に、他地域との違いではなく共通する事柄を中心に置く。16地区における共通課題をみつけながらも、今地域にあるものを最大限に活かして出来ることを探す。
- ◆地域特性、時代背景などによりニーズは変わってくる。見ていく視点が変わることで、進め方も変わる。
- ◆今だけ見るのではなく、5年10年先を見て支援を考え、今あるものを活用し、つなぎあわせた支援を考えていく必要性。
- ◆ちゃんとやろうとしないこと。話合いやつぶやきの中からヒントを見つける。
- ◆2層(16地区)でバラバラのことをしているから1層での話し合いが難しいのではないということが理解することができた。バラバラな点に目を向けず、共通点について探してみたい。

担当者の気付き

- ◆1層・2層協議体を進める上で、市のありたい姿や方向性をきちんと見つけていくことが重要。
- ◆地域特性の使い方を間違っていないかという先生のアドバイスにはっとさせられました。

1回目支援後に取り組んだこと

①共通テーマの設定と地域ニーズ実態把握について

◆共通テーマの設定

WGにて、石巻市第8期介護保険事業計画に挙げられている本市の課題10個のうち、生活支援体制整備事業が担える部分はどこかを検討。

「生活支援」と「社会参加」の2つを共通テーマを設定し、2層協議体ごとに、現状や今後に向けた提案等を実態把握することにした。

◆地域ニーズ実態把握

『生活支援』『社会参加』という2つの共通テーマを設定し、各地域の現状や今後に向けた提案等を実態把握するもの。結果として、第2層協議体や地域で取り組めることについては、継続的に話し合いを続けてもらい、第1層協議体においては、地域ニーズの整理・分析を進め、仕組化が必要なもの等、提言へつなげていく。

実施期間 : 令和5年 ♥月23日～令和6年1月31日

対象者 : 2層協議体 16地区

調査方法 : 生活支援Coが中心となり、第2層協議体の中で、上記の共通テーマについて話し合ってもらおう。

令和5年度 第2層協議体における地域ニーズ実態把握

石巻市介護保険事業計画（第8期）の介護保険事業計画
◆基本理念 「共に支え合い、生きがいと役割を持って、健やかに安心して暮らせるまち」
①生活支援の課題 生活支援体制整備事業（課題）の推進に必要となる人材不足の解消、協議体ごとの生活支援体制の構築等が重要となる
②社会参加の課題 社会参加の推進に必要となる人材不足の解消、協議体ごとの社会参加の推進等が重要となる

協議体名	実態	ニーズ	提案
『生活支援』 ・生活支援 ・生活支援 ・生活支援 ・生活支援 ・生活支援 ・生活支援 ・生活支援 ・生活支援 ・生活支援 ・生活支援	「高齢者の介護ニーズと、その対応方法、その対応方法の課題について、地域ごとに現状を把握し、協議体ごとに課題を整理・分析し、仕組化が必要なものを提案する。協議体ごとの生活支援体制の構築等が重要となる。」	「地域ごとに現状を把握し、協議体ごとに課題を整理・分析し、仕組化が必要なものを提案する。協議体ごとの生活支援体制の構築等が重要となる。」	「地域ごとに現状を把握し、協議体ごとに課題を整理・分析し、仕組化が必要なものを提案する。協議体ごとの生活支援体制の構築等が重要となる。」
『社会的活動』 ・社会的活動 ・社会的活動 ・社会的活動 ・社会的活動 ・社会的活動 ・社会的活動 ・社会的活動 ・社会的活動 ・社会的活動 ・社会的活動	「地域の社会的活動の現状、その課題について、地域ごとに現状を把握し、協議体ごとに課題を整理・分析し、仕組化が必要なものを提案する。協議体ごとの社会的活動の推進等が重要となる。」	「地域の社会的活動の現状、その課題について、地域ごとに現状を把握し、協議体ごとに課題を整理・分析し、仕組化が必要なものを提案する。協議体ごとの社会的活動の推進等が重要となる。」	「地域の社会的活動の現状、その課題について、地域ごとに現状を把握し、協議体ごとに課題を整理・分析し、仕組化が必要なものを提案する。協議体ごとの社会的活動の推進等が重要となる。」
『社会参加』 ・社会参加 ・社会参加 ・社会参加 ・社会参加 ・社会参加 ・社会参加 ・社会参加 ・社会参加 ・社会参加 ・社会参加	「高齢者の社会参加の現状、その課題について、地域ごとに現状を把握し、協議体ごとに課題を整理・分析し、仕組化が必要なものを提案する。協議体ごとの社会参加の推進等が重要となる。」	「高齢者の社会参加の現状、その課題について、地域ごとに現状を把握し、協議体ごとに課題を整理・分析し、仕組化が必要なものを提案する。協議体ごとの社会参加の推進等が重要となる。」	「高齢者の社会参加の現状、その課題について、地域ごとに現状を把握し、協議体ごとに課題を整理・分析し、仕組化が必要なものを提案する。協議体ごとの社会参加の推進等が重要となる。」

※数値は概算、内容等が必ずしも正しいとは限りません。協議体ごとに異なります。

調査期間：令和5年1月23日

1回目支援後に取り組んだこと

②生活支援体制整備事業研修会開催に向けた具体的検討

◆研修会の目的は「2層協議体メンバーが、生活支援体制整備事業の基礎的な知識と協議体の役割や目的を共通認識を持ち、皆が同じ方向性を向けるようにイメージを持つ」こと。

◆研修会の効果では各地区2層協議体で講演内容を持ち帰り裾野が広がることを期待したい。

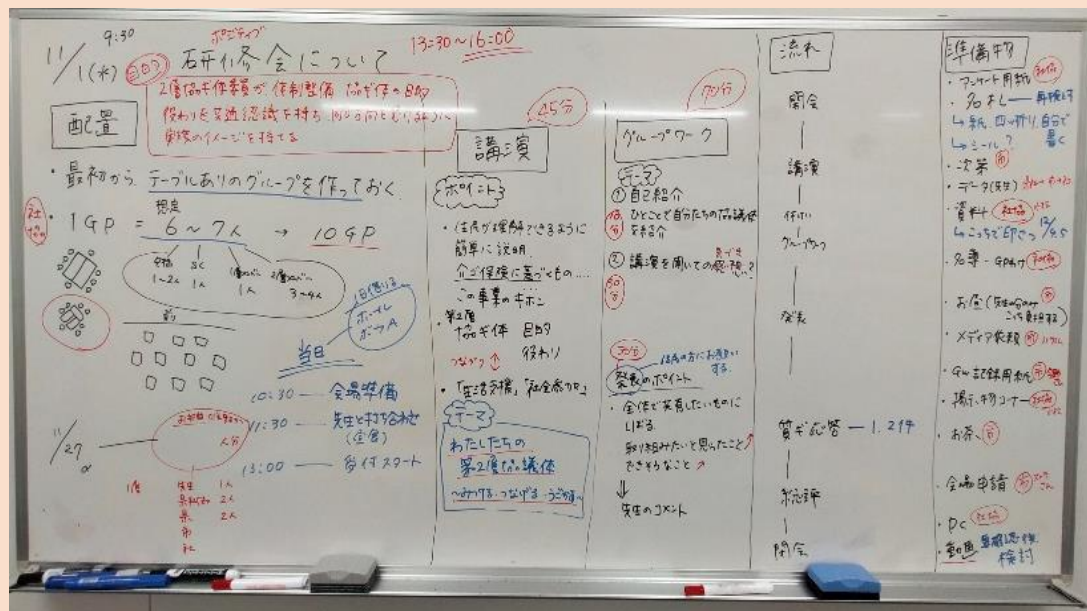
◆グループワークの内容や進め方、役割分担の整理

⇒目的、研修会の目指すところ、期待する波及効果などを皆で共有



【参加者】

- ・石巻市保健福祉部介護福祉課
- ・石巻市社会福祉協議会
- ・宮城県保健福祉部長寿社会政策課
- ・宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局



1回目支援後に取り組んだこと

◆運営上の工夫

⇒各地区第2層協議体より2名参加に限定

第2層協議体メンバー全員を対象とすると約120名規模に・・・

初めての企画であり、参加者一人ひとりにしっかりと伝わる場にしたいと考え、規模を考慮

第1層協議体メンバーにも同じ学びをと考え、研修会の案内を送付

◆グループワークの工夫

⇒ごちゃまぜのメンバー構成で、5人程度の小さいグループに設定

第2層Coがファシリ役、地域包括が記録役を担い、短時間でも主体的に話せる場に

⇒テーマは… ①自己紹介(ひとことで自分たちの協議体を紹介)

②講演を聞いての気づき

⇒各地区の第2層協議体状況をまとめたシートを作成し、各テーブルに配置

取り組み状況が共有しやすくなる仕掛け(ツール)として活用

◆その他の工夫

⇒ビデオ撮影(第2層協議体でも視聴できるように)

掲示物で雰囲気づくり(各地区の第2層協議体状況をまとめたシート掲示)

AI記録

10グループ全てから
発表してもらいました。



2回目支援内容(12月7日)

生活支援体制整備事業研修会

【目的】

各地区の第2層協議体を対象とした研修会を実施し、生活支援体制整備事業の理解促進と事業の方向性の再確認や、他の第2層協議体との情報交換をとおして、高齢者を支える地域の支えあい体制づくり推進のための学びの場を創出する。

【内容】

(1)講演「わたしたちの第2層協議体 ～みつける・つなげる・うごかす～」

講師:仙台白百合女子大学 志水 田鶴子 先生

(2)グループワーク、情報交換

【対象者】

第2層協議体 16地区2名ずつ

第2層生活支援Co 13名

第1層生活支援Co 1名

石巻市生活支援・介護予防体制整備推進協議体 14名

地域包括支援センター 12名

計 72名程度

その他(宮城県保健福祉部長寿社会政策課、宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局)

生活支援体制整備事業の基礎的な知識や協議体の目的、役割を共通認識できて、同じ方向性でイメージできるように！
なるといいな…

生活支援体制整備事業研修会の様子①

第2層生活支援Coを含めた事前打合せ

GWファシリのポイントや雰囲気づくり
など入念に伝えています。



講演中の様子

講演では、「交流の積み重ねが地域づくりになること」「協議体の目的や役割」などについて講演いただきました。

生活支援体制整備事業研修会の様子②



各地区協議体の取組を
パネル展示しています。

稲井地区で進めている
「趣・特・資ファイル」の見本を
市社協職員が作成しました。



石巻市生活支援体制整備事業広報誌
「こねっと」や、釜・大街道地区で作成
している「わくわく通信」等の冊子を
配布しました。

生活支援体制整備事業研修会をとおして

第2層協議体メンバーの声

- ◆協議体となるとむずかしく感じて、なかなか理解が出来ないが、日常の生活の中でもいろいろと出来ることがあると考える事が出来、少し安心。早速実践しようと思っています。
- ◆地域の方との話し合う機会が、様々な活動や意見(考え方)を聞くことができ、参考になりました。
- ◆肩肘を張らないグループワークになっていたのも、心置きなくしゃべることが出来ました。
- ◆地域ごとの強みや課題、それに対する取り組みを共有してみたい。

第2層生活支援コーディネーターの声

- ◆地区を越えて、サポート合える、アドバイスし合える要素が高まった。
- ◆自分の地区の協議体に自信を持っていることを知れて、嬉しい気付きとなった。
- ◆第2層協議体で内容を共有して、自分たちの取組を客観的にみることができていた。
- ◆第1層協議体委員が第2層協議体の取組を知る良い機会にもなった。協議体が進んできたからこそ他地区のことを聞きたい、知りたいという時期でもあったのかと思った。
- ◆「自分たちの協議体が上手く進んでいないことに悩んでいる」という方もおり、私達が思っている以上に協議体に真剣に取り組んでいただいているのを実感しました。
- ◆地域包括支援センターと協議体のからみが少なかったため今後、一緒に考えてもらえるきっかけになると思った。

生活支援体制整備事業研修会をとおして

担当者の気付き

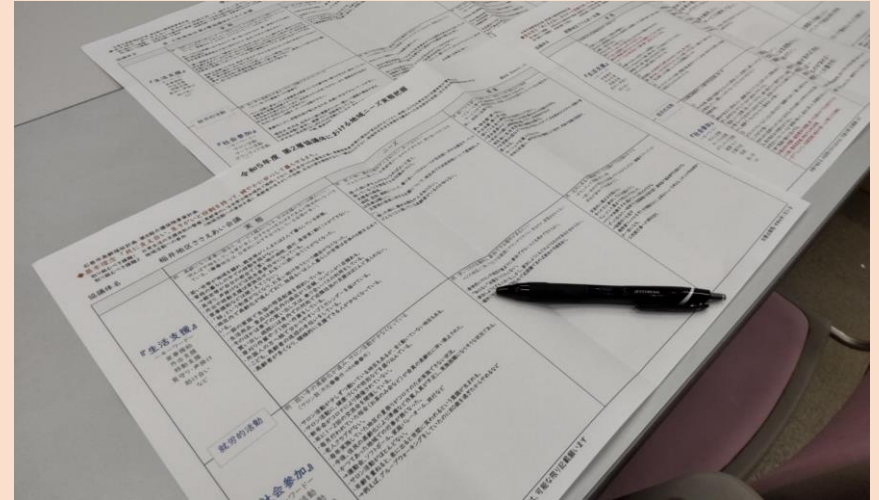
- ◆全体の構成もよく、話しやすい雰囲気もうまくつくれていた。第1層協議体メンバーで、事前に何度も協議・検討を重ねた成果が出たのではないかな。
- ◆市と、社協(Co)と市民とで、今回の様な規模と内容で研修会を実施することができた。日頃から、顔の見えるコミュニケーションを重ね、信頼関係が築けているということなので、今後もそのことを大切にしたい。

研修会全体をとおして

- ◆参加した第2層協議体のメンバーからは、「有意義な時間だった」「早速実践しようと思う」「様々な活動や意見(考え方)を聞くことができて、参考になった」などの感想が聞かれ、おおむね研修会の目的は達成できたと感じた。
- ◆研修会に参加した第2層協議体のメンバーも、地域に戻り、研修会の報告をして共有する時間を設けるなど、主体的な動きが見られた。
- ◆全体をとおして、事業の共通理解や意識が上がった。
- ◆研修会后、地域包括支援センターが生活支援体制整備事業(協議体)に積極的に参画してくれるようになった。各地区の居宅介護支援事業所等の研修会で生活支援体制整備事業をテーマとした研修会を開催するところが増えた。
- ◆グループワークは積極的に話せた一方で、やはり時間が少なかったという声や、記録に追われてしまった、という声が聞かれた。

3回目支援内容(1月26日)

- ◆生活支援体制整備事業研修会振返り
- ◆地域ニーズ・実態把握シートの進捗状況共有
- ◆今後の取組について意見交換



【参加者】

- ・仙台白百合女子大学 准教授 志水 田鶴子 氏
- ・石巻市保健福祉部介護福祉課
- ・石巻市社会福祉協議会
- ・宮城県保健福祉部長寿社会政策課
- ・宮城県社会福祉協議会 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局

3回目支援をとおして

担当者の気付き

- ◆行政とCoと、研修会の進め方など情報共有しながら進めることができた。また、共通認識で進めること、見える形で伝えることの大切さを感じた。
- ◆分析の際、抽象度をあげてカテゴリ化していくと、共通する課題が見えてくる。第1層協議体で取り組むべきことも見えてくる。
- ◆共通する地域特性でも分類してみると、地域特性ごとの課題も見えてくるので、もう一度探るとよい。
- ◆実態把握で、2つのテーマごとに「課題・ニーズ・提案」を挙げてもらったが、挙げられた課題に対して「じゃ、今どうしているんだろう」を聞いてみると、それが他の地区の解決策やヒントになることもある。

今後の取組

- ◆第2層協議体から挙がってきた「地域ニーズ実態把握」の整理・分析を進め、第2層協議体へフィードバックする。第1層協議体でも共有し、現状把握と今後の1層域でできることを検討する。
- ◆第2層協議体の取り組みの発表・評価の機会、今どうしてるんだろうを知る、協議体同士の横のつながり作り、協議体以外の住民さんへの周知、「生活支援」「社会参加」の深堀り、などなど色々な取り組みたいことが出て来ているが、次年度どこを重点事項にしていくかなど、連携を図り、継続的に話し合っていきたい。

伴走型支援事業をとおしてのまとめ

それぞれの変化

<市担当者>

◆16地区の違いは、差ではなく、カラーが違う。バラバラな点に目を向けるのではなく、共通点を見つけたり、今あるものを活かして考える。

◆視点を地域で見えていくと、住んでいる方々が、どんな地域に住みたいか、どんな地域にしたいか、という将来像を持つことが大事であり、そこに住んでいる人にとっての地域づくりであること。

◆伴走型支援事業をとおして、一緒に話し合い、作り上げていく時間が一番大切と改めて気付いた。

<関係者>

◆外部の方の評価が、自分たちの進め方や取り組みを客観的に見る機会となり、次の展開を考えやすくなった。行き詰まり感を感じるが多かったが、出口を一緒に見つけて下さるアドバイスや提案を自分たちは求めていたことに気づけた。

◆分析など専門知識が乏しく、情報整理や調査からの課題抽出、整理方法に悩んでいたため、専門的な視点でアドバイスをいただけたことで、進めていく根拠が明確になった。



全員が同じ目的意識をもったチームになること☆

ご清聴ありがとうございました。



石巻地区介護福祉フェスティバルに
生活支援体制整備事業啓発のための
コーナーを設置しました。
一般の方に知ってもらう第一歩に。

